

6. 実証実験に向けた取組

(1) 実験スケジュールの調整

① 実験日程案

- ・ DMVによる観光活性化について、実証実験により導入効果の検証を行うという視点では、より長期間にわたり実施することが望ましい。しかしながら、長期間にわたる実験の実施には、車両借用に係る調整や実験に係る予算などの兼ね合いもあり、現時点では行楽シーズンの土日を中心とした数日間の規模になるものと想定される。
- ・ 冬季（12～2月）は、観光のオフシーズンとなること及び気候上の条件（降雪・凍結）等の影響を勘案して避けることが望ましい。
- ・ 先行事例である富士市のデモ走行では、初回打合せからデモ走行までに9ヶ月、事前の打診から含めると1年5ヶ月を要しており、本実験においてもJR北海道や各関係機関との調整を同様に考えると、相応の準備期間を確保することが必要である。

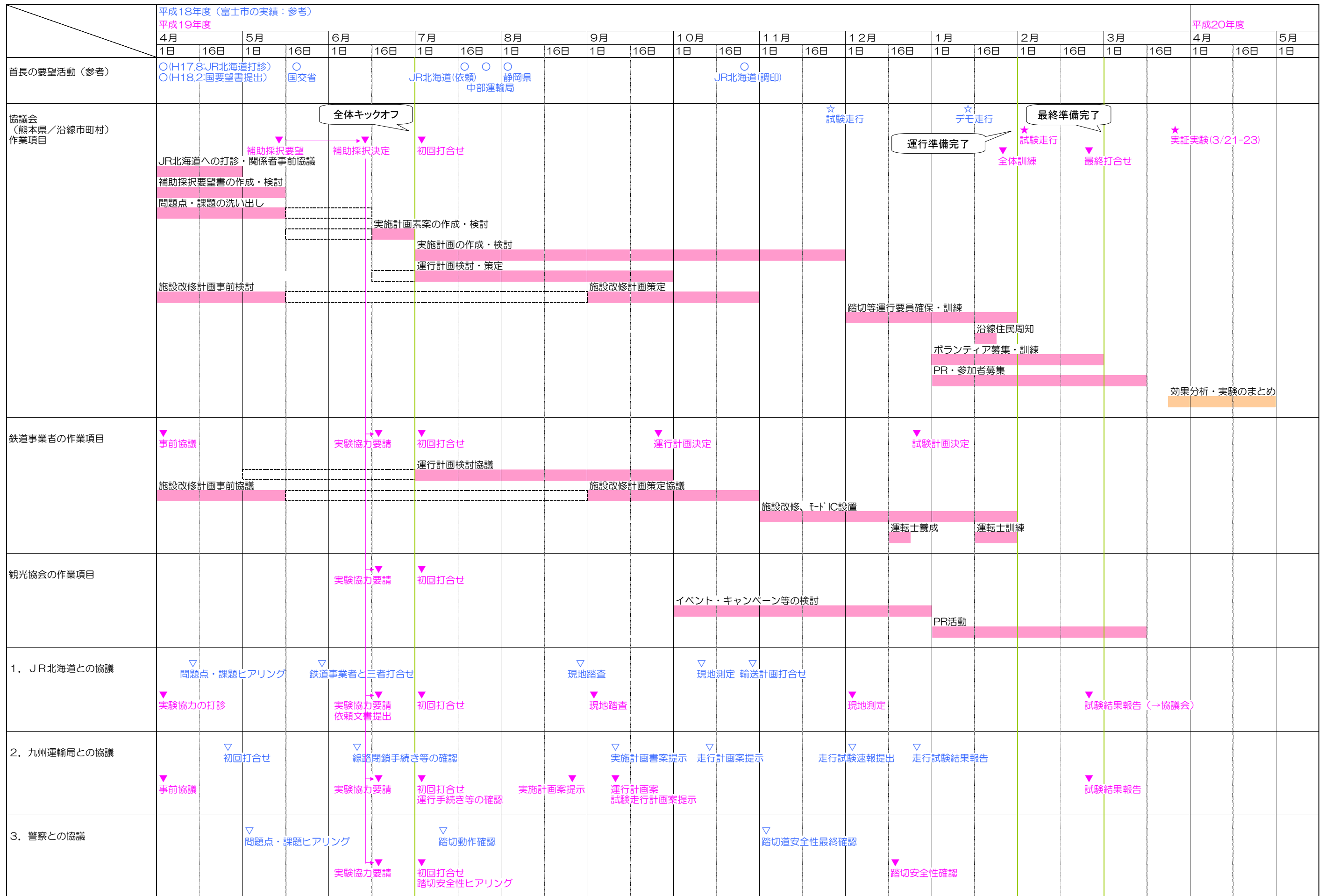
以上より、一定の準備期間を確保した上で、かつ、冬季を避けて観光客が見込まれる時期を考慮すると、平成19年度の実験日として、春休みシーズンの3連休となる3/21～23が候補として挙げられる。ただしこの場合の実験効果の検証等は平成20年度初頭にまたがる可能性がある。

ただし、具体的な日程の決定は、DMV車両の貸出元であるJR北海道との協議による必要がある。

② 留意事項

- ・ DMVの運行にあたっては、車両貸出元であるJR北海道の協力が不可欠であり、平成19年度に向けては実験計画策定の前提条件として車両貸与時期や日数などに関する事前の打診・協議が早急に必要になる。（富士市の場合、約1年5ヶ月前に富士市長が打診を行っている。）
- ・ 実験の実施にあたっては、確実な安全性の確保が求められるため、事前（本走行の約1ヶ月前）に当該路線で試験走行を実施し、線路状態の確認や車両の走行安全性の確認等を行う必要がある。このため、試験運行に備えて、本走行の約2ヶ月前にはDMV運行に係る線路施設整備等を完了する必要がある。
- ・ 準備に係る作業量は運行区間によって大きく異なる。特に全線運行することを検討する場合には、必要となる施設整備が広範囲にわたることや、踏切監視等に係る人員の確保・訓練の規模が大きくなるなど、より長期間の準備期間が必要になる。
- ・ 営業列車のダイヤを大幅に変更したり、運休が必要な計画を立てる場合には、鉄道事業者から半年前程度までに運行計画を決定することが求められている。ただし、間合いに運行するなどして営業列車の通常ダイヤへの影響を及ぼさない計画の場合にはこの限りではないと考えられる。

南阿蘇鉄道DMV実証実験 H20.3下旬実施に向けたスケジュールのイメージ



(2) PR・イベント等の検討

実証実験の実施にあたっては、その目的や実験の内容について必要な PR を行い、実験参加者の募集を行う。また、実証実験を通じて沿線住民の南阿蘇鉄道や生活交通への関心を高める機会とするとともに、熊本市や福岡市など大都市部の市民が南阿蘇地域の観光 PR に関心を抱くような工夫が必要となる。

① PR 方法（案）

ア) キャンペーン活動

DMV 導入は、九州新幹線によって来熊する観光客への利便性向上をひとつの目標とするものであるが、新幹線開業前の実証実験の段階においては、熊本県内及び九州内での関心を喚起することを目的に、熊本市内及び福岡市内の JR 駅などでポスターの掲示などを行い、DMV 運行を PR する。

イ) 事業者とのタイアップ

JR 九州及び産交バス(株)に協力を要請し、DMV 見学・乗車ツアー等の企画を行い、DMV 乗車前後への観光コースの組み入れなどにより観光客の利便性を確保するとともに、PR 効果を高める方策が考えられる。

ウ) インターネットによる情報提供

DMV はこれまででない運行形態から、マスコミや運輸業界はもとより、交通問題を抱える自治体や観光業界、市民団体などから全国的に注目を集めている輸送機関であり、DMV の運行に併せて南阿蘇の PR には大きな機会となる。特設ホームページを開設し、県・自治体及び各観光協会等ホームページからのリンク等により、幅広く情報を提供する。

内容は、運行に関する事項のほか、DMV 乗車・見学のモデルプランや、DMV と他の観光を組み合わせたモデルプランの提供を行う。また DMV の広報活動と併せて、南阿蘇の魅力を幅広く観光をアピールする機会となる。

エ) 地元 PR

南阿蘇鉄道の駅、地域の公共施設や観光施設にポスター掲示等を行い、南阿蘇鉄道や一般市民に対しても、DMV という新しい輸送システムへの関心を提起する。

② イベントの開催

実証実験の成功に向けては、南阿蘇鉄道で DMV を運行したという実績を作ることにとどめることなく、沿線住民が地域の交通や観光に対して関心を持ち、実験に対して地域が一体となって取り組むことが必要である。そこで、地元商工会等の協力を求めながら DMV 運行に併せた観光イベントの実施などを検討する。

特に、DMV の運行計画に合わせて、南阿蘇地域の中心部である高森側で列車の待ち時間を利用したイベント方策や、途中経由地（あそ望の郷くぎの等）でのイベントの実施が考えられる。

③ 地域住民等の協力

実証実験においては、人的対応に頼る部分も多く、特に踏切通過に係る交通安全の確保のために、数十人単位の要員が必要である。

各自治体職員による対応に留まらず、住民等を含めたボランティア組織を立ち上げ、地域が一体となって実験に取り組むことができれば、地域の南阿蘇鉄道に対する意識を高めるきっかけともなりうるものである。

また、実験当日は県内外から多くの来訪者が予想されることから、来訪者への対応や沿道警備・誘導についても考慮する必要があるほか、ルートやダイヤ案によっては南阿蘇鉄道の通常運行に影響が及ぶ場合などに備えて、実証実験に関する情報提供などを幅広く行い、協力を求めていく姿勢が必要であると考えられる。

④ 実験効果の測定

今後の DMV の本格導入に向けた基礎資料とするため、実証実験の実施に併せてアンケート調査等を実施し、DMV の関心度や DMV の存在が移動行動に与えた影響などを把握し、実証実験の効果と今後の課題を検討することを考える。

また同時に、南阿蘇鉄道の一般利用者等に向けても同様のアンケート調査を実施し、現状の地域交通に抱える問題点や要望等を明らかにした上で、DMV の認知度等を探る。

表 調査対象及び調査対象案

調査対象：	<ul style="list-style-type: none">・ DMV 乗車体験者・ 南阿蘇鉄道利用者・ その他、実験期間中の沿線来訪者
調査項目案：	<ul style="list-style-type: none">・ 属性（居住地、年齢、性別、来訪目的、日程等）・ 移動ルート、移動手段・ DMV の認知度、認知方法・ DMV の希望用途、アクセス向上が求められる公共施設等・ DMV の利便性等に関する評価 <p>（運行方法、運行ダイヤ、時間帯、乗換のしやすさ、立ち寄り先の観光施設選択の評価、など）</p>

(3) 来年度の実施体制

- ・ 今年度の委員を継承した実証実験協議会（仮称）を設置する。
- ・ 協議会の事務局は、熊本県、高森町、南阿蘇村、山都町、大津町、西原村及び南阿蘇鉄道で構成する。
- ・ 実証実験に際して、基盤整備、踏切処理、防災等の技術的課題への対応、さらには、地域や県外等への広報・啓発の対応等専門的な検討を行うため、協議会に技術検討部会、観光部会等のプロジェクトチームを組織することを想定する。
- ・ 各プロジェクトチームにおける活動にあたり、実務的な協議等にあたっては九州運輸局をはじめ関係機関・事業者等に必要に応じて協力を要請する。

